



[Teeta]



「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



てんねる
釧路町天寧1遺跡 貝塚調査状況（縄文時代中期～後期）

○平成 17 年度発掘調査概要	2
○平成 17 年度の調査	3
○資料紹介 共和町リヤムナイ3遺跡石器集中1出土の遺物「これも石鏃!？」	4
○平成 18 年度調査予定遺跡	5
○追悼 藤本英夫氏・高橋正勝氏を偲ぶ	6
○「穴」	8

○平成 17 年度発掘調査概要

今年度は道内 7 市町に所在する 16 遺跡で発掘調査を実施しました。このうち 7 遺跡は前年度からの継続調査です。

以下、調査の成果を時代、時期順に略述します。

旧石器時代 チブニー 2 遺跡から有舌尖頭器が出土しています。

縄文時代早期 東陽 1 遺跡では樽前 d 降下火山灰より下位からテンネル式土器の時期の竪穴住居跡、土坑、黒曜石の剥片集中などが検出されています。石錘は、短軸に打ち欠きが見られるものです。キウス 9 遺跡では、黒曜石製の石刃鋸が破片を含めて 70 点ほど出土しています。竪穴住居跡は、平面形はほぼ円形で直径 7 m ほどの大型のもので、東釧路Ⅲ式土器を伴っています。西島松 2 遺跡では中茶路式土器の時期の住居跡が検出されています。上リヤムナイ遺跡では、420 点ほどの黒曜石剥片が容器に入れられた様子を想定できる状態で検出されています。

縄文時代前期 西島松 2 遺跡の静内中野式土器の時期の捨て場からは、土器、石器等とともに漆製品も出土しています。前年度調査区に接して発掘を行ったリヤムナイ 3 遺跡では、砂丘堆積物の中から焼土、集石、剥片集中、石器集中、炭化物集中などの遺構が検出されています (4p 参照)。

縄文時代中期 館野 4 遺跡では、円筒土器上層式の時期の竪穴住居跡、土坑、小ピット、焼土、石囲い炉、埋設土器などの遺構が検出されています。これらの遺構とは別の区域に T ピットが検出されています。天寧 1 遺跡では貝塚が検出されています。標高 4 m ほどのゆるい傾斜に 5 m × 5 m の範囲に広がっており、時期は北筒Ⅱ式土器～北筒Ⅴ式土器の頃のもので、厚さは中央部分で 1 m 弱で、貝類はオオノガイ、アサリが目につきます。この貝塚にはエゾシカなどの陸獣類、アシカ、オットセイなどの海獣類、カジキマグロ、サケなどの魚類など多種多様の骨が認められます。さらに竪穴住居跡、土坑、集石、剥片集中、焼土などの遺構も検出されています。石器では石槍、刃部が内湾するスクレイパー、加工痕・使用痕のある剥片などが多くみられます。

縄文時代後期 西島松 2 遺跡では、前葉の時期の竪穴住居跡が検出されています。大町 2 遺跡では前半の時期とみなされる竪穴住居跡が検出されています。矢不來 7 遺跡では、竪穴住居跡、土坑、石組み炉、焼土、土器集中、礫集中などの遺構が検出されています。これらの諸遺構、および包含層から出土した土器から判断すると、ここは後期後葉の限定された時期の集落であったといえます。竪穴住居跡の 6 軒は、地表面観察において、くぼみが認められたものです。石器では砥石の比率が高いのが目につきます。H-7 と呼称している住居跡の床面から石棒片が出土しています。

縄文時代晩期 矢不來 8 遺跡では、土坑、焼土、埋設土器、礫集中などが検出されています。埋設土器は、ひとつは壺形、もうひとつは深鉢形です。西島松 2 遺跡では、後葉の時期の土坑墓・土坑、焼土などを多数検出しています。これらの遺構は、次年度の調査予定区域へ続いています。対雁 2 遺跡で検出された土坑、焼土、集石などは、晩期後半～続縄文後葉の時期です。今年度検出された土坑は、円形や楕円形、規模は長径 0.4 ～ 0.8 m ほどの小型のものが多く、自然埋没したとみなされるもののほかに、礫等が検出されていて墓坑と推定できるものがあります。また、土坑内で多量のクルミを焼いた土坑も検出されました。

続縄文時代 矢不來 8 遺跡では、恵山式土器を含む土器集中が検出されています。大町 2 遺跡では、後北 C₁ 式土器の時期とみなされる土坑、柱穴、集石、焼土、炭化物集中、土器・石器等の遺物集中などの遺構、遺物が検出されています。粘板岩の石核・剥片はこの時期に顕著な石鋸の製作に関わるものです。

擦文文化期 柏木川 4 遺跡の 2 軒の住居跡はカリンバ型と呼ばれるもので、柱穴は竪穴の外側四隅に設定されています。ともに地表面観察において深くくぼみが認められたもので、床面の状態は構築材の焼失を示しています。キウス 9 遺跡では竪穴住居跡、鍛冶遺構が検出されています。遺物は甕、球胴甕、高坏、坏などの土器のほかに鉄製品、扁平円礫、紡錘車、土玉などがみられます。鍛冶遺構は 8 m × 6 m ほどの範囲に、鉄製品、鉄片、鍛造剥片、鉄滓、鉄床石、ふいごの羽口片などが出土しています。大町 2 遺跡では、擦文土器が少量出土しています。キウス 9 遺跡の平地住居跡、建物跡は擦文文化期～アイヌ文化期のものです。

アイヌ文化期 西島松 2 遺跡では、近世アイヌ墓が 1 基検出され、太刀、刀子、マレックなどの鉄製品が出土しています。大町 2 遺跡では、ふいごの羽口、内耳鉄鍋、刀子が出土しています。

○平成 17 年度の調査

くしろ どうよう
釧路町東陽 1 遺跡

遺跡は、J R 釧路駅から東北東へ約 5 km 離れた標高 30 m 前後の段丘上に立地しています。遺構は、台地の平坦面において竪穴住居跡 2 軒、土坑 3 基、黒曜石のフレイク集中 1 ヲ所が検出されました。出土土器がすべてテンネル式であったことや、遺構の覆土に樽前 d 降下火山灰の堆積が見られたことから、遺構は縄文時代早期前葉のものと考えられます。住居跡の地床炉から採取した炭化物の年代測定値も約 8000 年前という結果が得られています。土器は無文地に刺突が巡るものと、条痕が施されているものがあります。石器は彫器、三角形石鏃、石錐、スクレイパー、すり石、石錘などがみられます。石錘はこの時期に特徴的な扁平礫の短軸を打ち欠いたものでした。



調査終了状況

くしろ てんねる
釧路町天寧 1 遺跡

遺跡は、J R 釧路駅から東北東へ約 4.5 km 離れた別保原野に位置します。北側に広がる台地部分は天寧第 1 地点や天寧北貝塚などが分布しており、遺跡の存在が古くから知られている場所でした。調査地点は、標高が 3 ~ 5 m ほどで、低湿部に隣接しています。遺構は、貝塚 1 ヲ所、竪穴住居跡 1 軒、土坑 6 基のほかに集石やフレイク集中、焼土などがあります。貝塚はオオノガイとアサリが主体で、エゾシカなどの陸獣骨、アシカ、オットセイなどの海獣骨、カジキマグロ、サケなどの魚骨が含まれます。調査段階では銚などの骨角器もみられました。土器は縄文時代中期～後期前半のものが多く、次いで晩期の土器が、石器は石槍が完形品、破片ともに非常に多く出土しています。



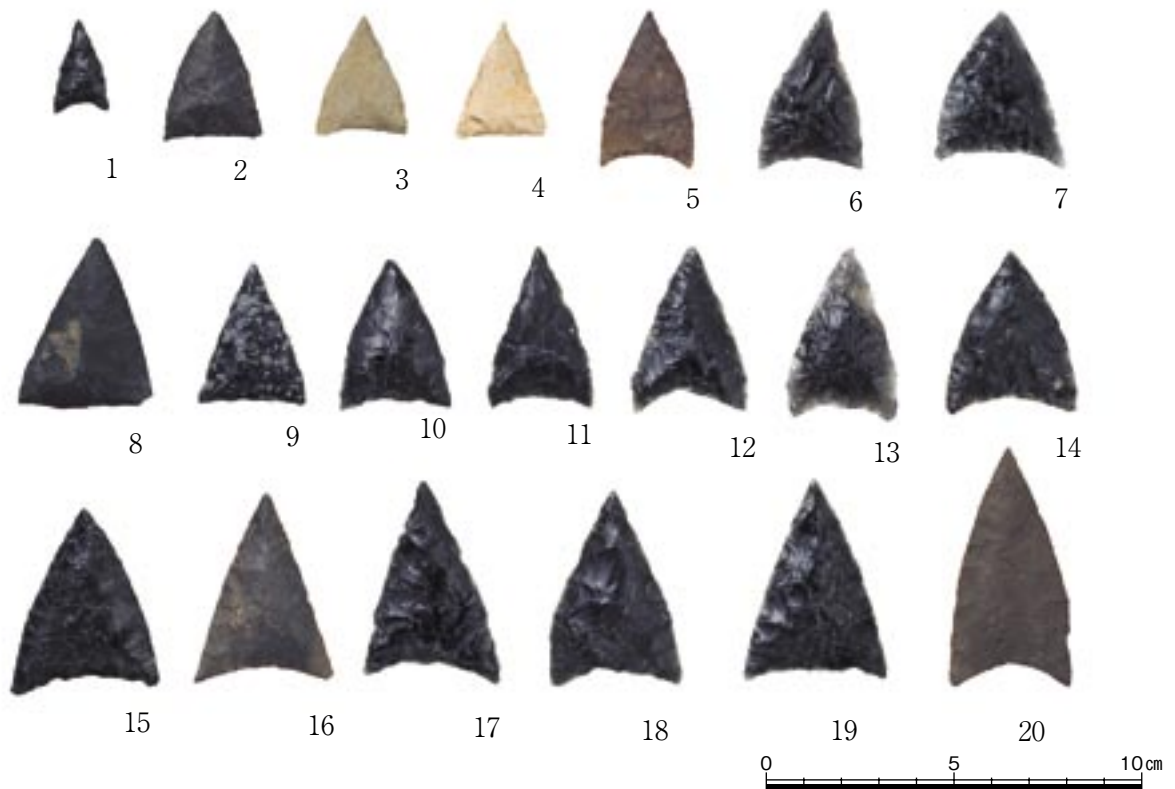
発掘調査状況

平成 17 年度発掘調査一覧

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)
札幌開発建設部	一般国道 337 号新千歳空港関連工事	チブニー 2	千歳市	1,300
		キウス 9		17,044
石狩川開発建設部	石狩川改修工事	対雁 2	江別市	3,650
		対雁 2		整理作業
函館開発建設部	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事	矢不來 6	北斗市 (旧上磯町)	4,660
		矢不來 7		6,482
		矢不來 8		6,196
		矢不來 11		5,300
		館野 4		7,100
		館野		整理作業
小樽開発建設部	一般国道 276 号岩内共和道路工事	リヤムナイ 3 上リヤムナイ	共和町	6,100 1,300
室蘭開発建設部	一般国道 234 号早来バイパス建設工事	大町 2	安平町 (旧早来町)	2,400
釧路開発建設部	一般国道 44 号釧路町釧路外環状道路工事	天寧 1 東陽 1	釧路町	618 382
網走開発建設部	一般国道 450 号白滝丸瀬布道路工事	服部台 2 ほか	遠軽町 (旧白滝村)	整理作業
東日本高速道路株式会社北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	森川 3	森町	整理作業
		三次郎川右岸		整理作業
石狩支庁 (札幌土木現業所)	柏木川基幹河川改修工事	西島松 2	恵庭市	7,205
		西島松 3		2,800
		柏木川 4		14,140
		西島松 5		整理作業
合		計		86,677

○資料紹介 共和町リヤムナイ3遺跡石器集中1出土の遺物「これも石鏃!？」

遺跡は、共和町の西端、日本海に面した標高約7mの海岸砂丘地帯に位置しています。平成16年、17年の2年にわたり9,600㎡を調査しました。縄文時代前期前半期(約5500年前)の遺構や遺物が多く見つかりました。遺構は、石器集中1ヵ所、集石21ヵ所、剥片集中71ヵ所、焼土64ヵ所を検出しました。このうち「石器集中1」は狭い範囲から約300点の石器や剥片が出土しています。ここでは石器集中1から出土した石鏃20点について紹介します。黒曜石を素材にしたものが13点、頁岩製のものが7点あります。1の石鏃は長さ2.5cm、幅1.5cm、厚さ0.3cm、重さ1.0gで、私達が石鏃と呼んでいる大きさです。しかし、5～20は大型です。とりわけ15～20は長さが5cmをこえるものです。最も大きい20は頁岩製で、長さ6.4cm、幅3.3cm、厚さ0.7cm、重さ12gです。



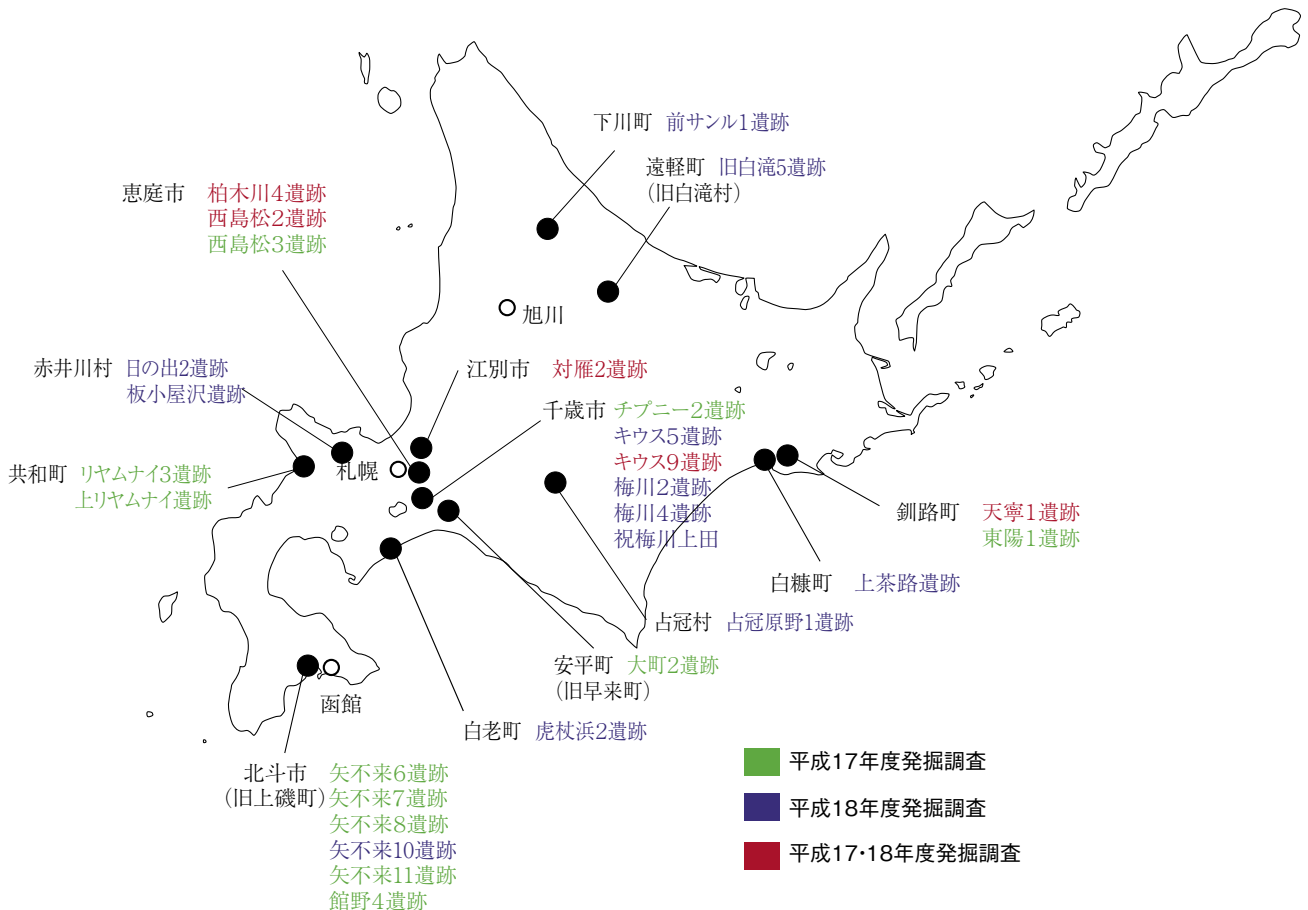
石器集中1出土石鏃



石器集中1遺物出土状況

○平成 18 年度調査予定遺跡

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部 一般国道 337 号千歳市新千歳空港関連工事	キウス 5	千歳市	3,200	
		キウス 9		7,956	
		梅川 2		7,625	
		梅川 4		5,000	
		祝梅川上田		9,100	
	石狩川開発建設部	石狩川改修対雁築堤工事	対雁 2	江別市	3,700
	函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	矢不來 10 館野	北斗市	6,326 整理作業
	旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設工事	前サンル 1		下川町
	室蘭開発建設部	一般国道 36 号登別拡幅工事	虎杖浜 2	白老町	1,770
	釧路開発建設部	一般国道 44 号釧路外環状道路改良工事 一般国道 392 号線上茶路道路改良工事	天寧 1	釧路町	2,720
上茶路			白糠町	1,130	
網走開発建設部	旭川紋別自動車道白滝丸瀬布道路改良工事	旧白滝 5	遠軽町	8,200	
		服部台 2 ほか		整理作業	
国土交通省北海道開発局計				57,427	
道路株式会社 東日本高速	帯広工事事務所	北海道横断自動車道建設工事	占冠原野 1	占冠村	4,702
	函館工事事務所	北海道縦貫自動車道建設工事	濁川左岸	森町	整理作業
	東日本高速道路株式会社北海道支社計			石倉 1	整理作業
北海道	石狩支庁	柏木川改修工事	柏木川 4	恵庭市	11,390
			西島松 2		3,920
			西島松 3・5		整理作業
	後志支庁	余市赤井川線道路改良工事	日の出 2	赤井川村	2,400
			板小屋沢		600
北海道計				18,310	
合計				80,439	



平成 17 年度発掘調査・平成 18 年度発掘調査予定遺跡

○追悼 藤本英夫氏・高橋正勝氏を偲ぶ

平成 17 年 12 月 24 日、元北海道埋蔵文化財センター常務理事 藤本英夫氏が逝去されました。78 歳でした。藤本氏は、北海道大学法文学部を卒業後、静内高校教師時代の 1952(昭和 27)年に、静内町御殿山墳墓群を調査されました。

1971(昭和 46)年、北海道教育委員会に移られ、文化財保護を推進されました。

当センターには、理事・調査部長として昭和 56 年 4 月 1 日～昭和 58 年 3 月 31 日（調査部長：昭和 56 年 5 月 1 日～昭和 58 年 3 月 31 日）、常務理事として昭和 58 年 4 月 1 日～昭和 63 年 2 月 2 日、理事として昭和 63 年 2 月 3 日～平成 11 年 3 月 31 日の間、在職されました。

ご逝去を悼みまして、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

在職中、同じく席を並べた 2 人に故人を偲んで、思い出を書いていただきました。

藤本英夫先生の言葉

北海道教育庁文化課参事

畑 宏明

藤本英夫先生が、昨年末にお亡くなりになった。藤本先生とは学生時代から面識があったが、昭和 49 年に私が道教委に勤めてからは、文化財保護の上司と部下の関係になった。以後、先生が埋蔵文化財センターを退職される昭和 63 年までの間、焼酎の飲み方から文化財保護の哲学までいろいろとご指導をいただいた。

1975(昭和 50)年の秋、新千歳空港の発掘現場にやってきた藤本先生は、膨大な量の遺構と遺物を見ながら「こういう遺跡は、本当は現状保存しなければ…」と独り言をつぶやきながら、突然私に向かって「お前さんは自分の専門である旧石器時代遺跡の保存をしなければならぬ。」と言われた。ようやく大規模発掘調査が始まったばかりの時に、先生はすでにその先を見通されていたのである。そして、先生の作戦は見事に成功した。その唐突な言葉にびっくりした私の意識の中には、「遺跡保存」の四文字が完全に刷り込まれた。その後、私はピリカ遺跡、白滝遺跡群、鷲の木遺跡などの保存協議に関わってきたが、そこには心の支えとして常に先生の言葉があったような気がする。

「中には現状保存する遺跡があっても良いのではないのか。」と言いながら「ホッ、ホッ、ホッ。」と笑う藤本節を思い起こしつつ、ご冥福をお祈りいたします。合掌。

藤本英夫先生のこと

第 2 調査部第 1 調査課長 遠藤香澄

藤本英夫先生は昭和 56 年～58 年に調査部長、同 58 年～63 年は常務理事として私達の指導に当たっておられました。発足間もないセンターは札幌市中央区の医院跡に仮住まいしており、庭に面したこじんまりした一室が調査部室、小さな廊下を挟み奥まったところが部長室でした。年度末になると調査員はこの部屋に個別に呼び出され、報告書の原稿を前にひざ詰めで文章の添削指導を受けるのが恒例でした。時には叱咤されたこともあります。

また、奈文研の坪井清足所長（当時）、道東標津町のポー川史跡整備に奔走していた故柳沢教育長をセンターに招聘なさるなど、文化財保護主事としてスタート間もない私達に、幾度となく当時の研究や保護行政の最前線を知る機会を設けてくださいました。

昭和 58 年秋でしたか、奈文研の研修の折、藤本先生とご一緒したことがあります。当時、ご自慢だった“行者ニンニク”の醤油漬（発掘現場周辺で採取したものです）の瓶を傍らに、研究所の方達と談笑されていた様子が懐かしく思い出されます。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

平成 18 年 2 月 14 日、元江別市郷土資料館長 高橋正勝氏が逝去されました。61 歳でした。

高橋氏には、北海道立埋蔵文化財センターが平成 11 年にオープンしたときから、さまざまな形でご協力いただきました。センター入口に展示してある復元土器の提供。2002(平成 14)年度には埋蔵文化財担当職員研修会『土器分類の実際 2 縄文時代前期』に併せて、復元土器づくりの実演をしていただきました。2003(平成 15)年度、秋季講演会『北海道考古学の諸問題－江別古墳群を築いた人々－』講師。2004(平成 16)年度、考古学講座『古代食講座』、2005(平成 17)年度、考古学教室『食べる考古学』では、氏が作成した復元土器を使用して調理を行いました。

ご逝去を悼みまして、ご冥福を心からお祈り申し上げます。



江別古墳群視察の折の藤本氏と説明案内する高橋氏 1980(昭和 55)年

写真は、1980(昭和 55)年江別古墳群視察の際撮影されたもので、左から札幌大学教授石附喜三男氏(当時、故人)、藤本英夫氏、江別市教育委員会直井孝一氏(当時、現江別市経済部)、高橋正勝氏、北海道大学助教授林謙作氏(当時)です。

北海道の埋蔵文化財保護の上でも貴重であり、北海道考古学の学史的にも重要と考え、直井氏より提供を受け、今回掲載いたしました。

○「穴」

5個のメダルを皮算用したトリノ五輪（鳥のオリンピックと思いこんでいた人がいたというのはホント？）も、早々にH田M彦の考えられないミスによる失格があり、終わってみれば、日本は女子フィギュアスケートで荒川静香の金メダル1個。この種目で金メダルを取ったのは、日本はもとよりアジアで初めての快挙だそうで、メダル1個でも良しとしようか。

ところで、トリノ五輪のメダルは中央に穴のあいたドーナツ形をしたユニークなデザインで、直径12cm、厚さ2cm、重さ450g。近代五輪では初めての穴あきのメダルだそうで、「広場」「競技場」「勝利の輪」と選手が首にかけたとき心が開いて見えることを表しているそうな。チョコレートやCD、5円玉のようだとの感想もある。通常のメダル2個分の量で、穴あきなら3個作れると思うのは下種の勘繰りか。

メダルの「穴」といえば、東アジア特に中国・日本の穴あき銭貨。今でも日本では5円と50円硬貨が使われている。穴あき銭は西欧では珍しく、コインマニアにはかなり珍重されているらしいが、現行のものは額面以上の価値は無いとのことである。

さて、18年度は当センターにとって道立埋蔵文化財センターの指定管理者最初の年。今年は『交流の考古学』というテーマの特別展を2回企画しており、1回目は夏に「玉」。道内の遺跡から出土した玉類のなかには、明らかに道外から齎されたものがあり、出土状況や材質を通して本州、大陸との交流を考えてみる。2回目は秋に「銭」。道内から出土した古代から近世の銭貨について通史的、地域的に捉えてみる。どちらも「穴」に関係しており、これはオリンピックの年の偶然か。もちろんそれぞれ関連する講演会を予定している。乞う、ご期待。

（第1調査部長 千葉英一）



◆交通案内◆

- ・JR 大麻駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
 - ・JRバス（文教通西循環線）・夕鉄バス（文京台線）に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
 - ・JRバス・夕鉄バス（江別方面行き）に乗車「道浅井学園大札学院大前」下車、徒歩15分